



令和5年産 麦作情報 (Vol.4)

令和5年4月20日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin/n/

今後の栽培管理のポイント: 赤かび病の適期防除

1. 10月~4月上旬の気象経過(図1)

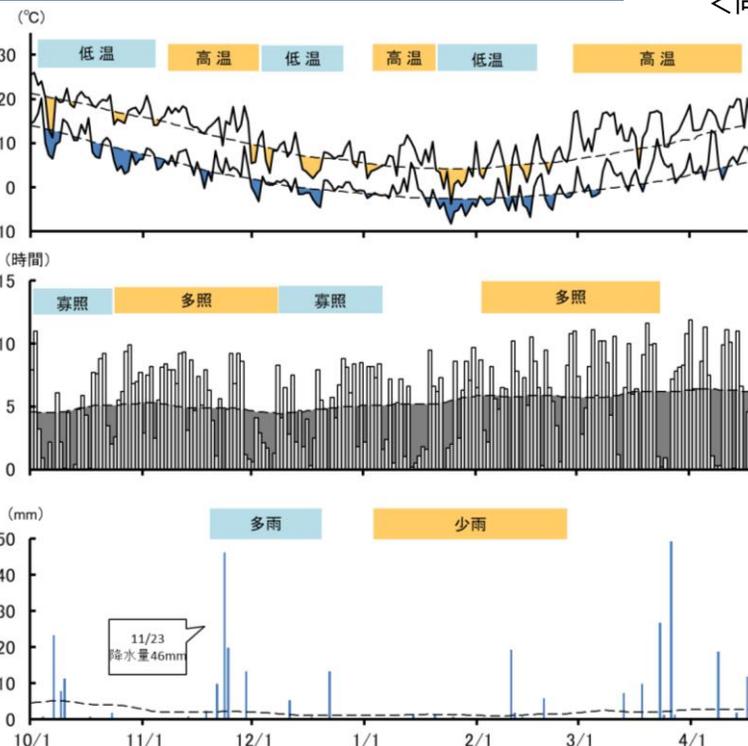


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温、中:日照時間、下:降水量
※点線は平年値

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

4/22~

【気温】	50	30	20
【降水量】	30	40	30
【日照時間】	30	40	30

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

4/22~

1週目	60	30	10
2週目	40	40	20
3~4週目	30	40	30

■低い ■平年並 ■高い

<一か月予報4/22~5/21 ※4/20時点>
天気は数日の周期で変わると見られます。

2. 生育調査ほの生育状況と生育ステージ(4月10日現在, 表1, 表2)

- ◆ 草丈はすべてのほ場で平年より長くなっています(表1)。
- ◆ 茎数はほとんどのほ場で平年より多くなっています(表1)。
- ◆ 幼穂長は平年よりかなり長くなっています(表1)。

表1 生育調査結果(4月10日)

品種	調査ほ(旧市町)	播種日(月/日)			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
シュンライ	城内(桃生)	10/07	-3	-14	59.6	+26.2	+28.5	707	70%	83%	36.4	+14.3	+24.6
ミノリムギ	高須賀(桃生)	10/15	-7	-10	51.1	+23.6	+25.3	964	116%	171%	22.2	+18.0	+17.5
	真野(石巻)	10/25	+2	-4	41.2	+10.4	+15.4	732	95%	133%	24.7	+13.7	+17.7
ホワイトファイバー	水沼(石巻)	10/15	-3	-9	49.7	+8.8	+15.1	699	104%	113%	45.6	+22.7	+27.2
シラネコムギ	小船越(河北)	10/16	+6	-21	44.5	+19.1	+23.5	1505	136%	212%	6.0	+3.4	+4.2
	檜崎(桃生)	10/27	-4	-2	37.5	+14.9	+9.1	1059	119%	110%	4.8	+2.5	+1.3

※ 平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

※ 水沼ホワイトファイバー調査ほは調査5年目のため、平年差・比は過去4か年の平均値との比較。

※ 幼穂長は9本の平均値

表2 生育ステージ予測

品種	調査ほ (旧市町)	4/10調査にお ける主茎5本の平 均幼穂長(mm)	減数分裂期			出穂期	開花期
			2回目の 追肥時期	前年差 (日)	平年差 (日)		赤かび1回目 防除時期
シュンライ	城内(桃生)	36.4	—	—	—	4月19日	4月28日
ミノリムギ	高須賀(桃生)	22.2	4月15日	-15	-14	4月25日	5月1日
	真野(石巻)	24.7	4月14日	-8	-12	4月24日	5月1日
ホワイトファイバー	水沼(石巻)	45.6	—	—	—	4月16日	4月27日
シラネコムギ	小船越(河北)	6.0	4月26日	-7	-10	5月6日	5月17日
	檜崎(桃生)	4.8	4月27日	-7	-4	5月7日	5月18日

※ 普及に移す技術第91号をもとに、4月10日付け調査による平均幼穂長と石巻アメダスの日平均気温(平年値)を使用して算出した目安。

※ 今後、平年並みの気温で経過した場合の想定日です。暖かい日が多ければ早くなり、寒い日が多ければ遅くなります。

※ 「+」は前年や平年と比べて遅いことを、「-」は前年や平年と比べて早いことを示しています。

3 今後の管理

(1) 追肥：穂揃期追肥(小麦のみ)の適期実施をしましょう

- ◆ 小麦は子実のたんぱく質含有率の高いものが求められます。たんぱく質含有率は登熟期の窒素供給量が多いほど高まるので**穂揃期追肥**を忘れず行いましょう。
- ◆ 穂揃期はほ場の全茎数の8～9割が出穂した日です。ほ場の状態を確認して適期施用を行いましょう。
- ◆ **夏黄金**は特に高い子実たんぱく質含有率を求められます。シラネコムギの**2倍量**の穂揃期追肥をしましょう。

表3 麦類の追肥量の目安

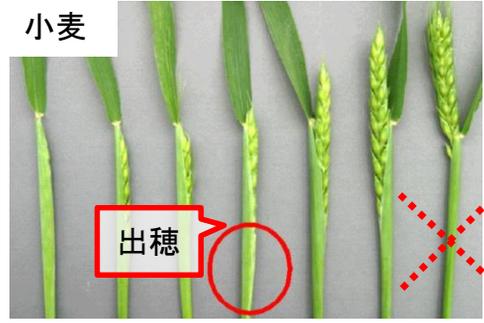
種別	品種	起生期(株直し)		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期
		起生期の葉の 黄化状態	越冬後、茎葉が再び 生長を始める時期	幼穂長が2～3mm	幼穂長が3～5cm 止葉の葉耳間長±0mm 出穂10～15日前	出穂した茎が80%
大麦	シュンライ ミノリムギ ホワイトファイバー	少ない	1	2～2.5	2～2.5	—
	目立つ	2				
小麦	シラネコムギ あおばの恋	—	—	2.5	2.5～5	2.5
	夏黄金	—	—	—	—	5

注) 追肥量: 窒素成分量(kg/10a)

(品種・生育量により調節)

出穂期, 穂揃い期の判断

麦類の出穂とは、**芒を除く穂の本体**が顔を出した状態(写真の丸印の状態)です!



- ★ ほ場の**出穂期**とは、全茎数の**4～5割**が出穂した(写真の丸印になった)日です。
- ★ ほ場の**穂揃期**とは、全茎数の**8～9割**が出穂した(写真の丸印になった)日です。

適期に防除を行いましょ！

(2) 赤かび病防除:「赤かび病の発生時期は早い、発生量は平年並み」と予測されています

(発生予報第1号 宮城県病害虫防除所 令和5年4月14日発行)

重要 【赤かび病防除適期】

- 1回目：開花始期～開花期
- 2回目：1回目の7～10日後
- (3回目：2回目の7～10日後)

【開花始期～開花期の大まかな目安】

- 【大麦】 出穂期後5～8日頃
- 【小麦】 出穂期後10～13日頃

- ◆ 赤かび病防除は、**防除時期(特に1回目)が重要**です。
- ◆ 基本は2回防除です。ただし、**降雨が続く場合**や「**夏黄金**」の場合は**3回**の防除が必要です。
- ◆ 薬剤耐性菌対策のため、**RACコードが同じ薬剤の連用を避け**、計画的に**ローテーション散布**を行いましょ。
- ※RACコード:農薬の有効成分を作用機序別にグループ分けし、アルファベット又は数字で表したものです。
- ◆ 「**チルト乳剤25**」と「**シルバキュアフロアブル**」は作用機序が同じなので、**連用しない**でください(表4)。
- ◆ 「**シラネコムギ**」は**開花期が早まるほど発病リスクが高まる**ので適期を逃さないよう防除を行いましょ。
- ※普及に移す技術第92号参考資料「小麦開花期とコムギ赤かび病発病リスクの関係」より

表4 赤かび病の防除薬剤(2023年4月5日登録反映)

薬剤名	適用作物	希釈倍数・使用量	散布液量	使用方法	使用時期	使用回数	RACコード
トップジンMゾル	麦類(小麦を除く)	1500倍	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	F:1(B1)
		8倍	0.8L/10a	無人航空機による散布	収穫21日前まで		
	小麦	1000～1500倍	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	
		8倍	0.8L/10a	無人航空機による散布			
トップジンM水和剤	麦類(小麦を除く)	1000～1500倍	60～150L/10a	散布	収穫30日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	F:1(B1)
	小麦	1000～1500倍	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	
		250倍	25L/10a	散布 【ブームスプレーヤー】			
トップジンM粉剤DL	麦類(小麦を除く)	4kg/10a	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	F:11(C3)
	小麦	3～4kg/10a				3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	
ストロビーフロアブル	麦類(小麦を除く)	2000～3000倍	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	3回以内	F:11(C3)
	小麦	2000～3000倍	60～150L/10a	散布			
		500倍	25L/10a	散布 【ブームスプレーヤー】			
シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍	60～150L/10a	散布	収穫14日前まで	2回以内	F:3(G1)
		16倍	0.8L/10a	無人航空機による散布			
	小麦	2000倍	60～150L/10a	散布	収穫7日前まで		
		500倍	25L/10a	散布 【ブームスプレーヤー】			
チルト乳剤25	大麦	1000～2000倍	60～150L/10a	散布	収穫21日前まで	1回	F:3(G1)
		8倍	800mL/10a	無人航空機による散布			
	小麦	1000～2000倍	60～150L/10a	散布	収穫3日前まで	3回以内	
		8倍	800mL/10a	無人航空機による散布			

— 農薬を適正に使用しましょ —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょ。
 - 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用しましょ。
 - 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認しましょ。
 - 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努めましょ。
 - 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努めましょ。
 - 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょ。
- ※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認しましょ。
 農林水産省の農薬登録情報提供システム: <https://pesticide.maff.go.jp/>